

■ 杉材でベンチ作製、モノづくりの基礎学ぶ

広島工業大学

環境学部建築デザイン学科の1年生108人が、授業の中で広島県産の杉材を使いベンチを作った—写真。本来は1

年生の前期科目として4年間の学びの土台づくりとなる授業だが、新型コロナウイルス感染症の影響で後期に変更。大学は完成したベンチを県内の公共施設などに贈る。学生は11班に分かれ、まずコンセプトとデザインを話し合い設計。大型の機械やのこぎりを使い、真剣な表情で木材を加工し組み立てた。中には、1人分の座面を可動式にして、隣との間隔を広げることで心理的に座りやすい作品もあった。森田秀樹教授は「デザインから加工、組み立てまでの全工程を体験し、モノづくりの楽しさを感じてほしい」と話した。

